

# 令和5年度全国学力・学習状況調査 伊予市調査結果概要

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和5年4月18日(火)
- (2) 調査実施校及び調査学年・児童生徒数  
小学校9校(第6学年308名) 中学校4校(第3学年290名)
- (3) 調査の内容
  - ① 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語(中学校))
  - ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

## 3 教科に関する調査結果の概要

### <小学校調査>

	国語	算数
伊予市	68	63
愛媛県	67	62
全国	67.2	62.5

### <中学校調査>

	国語	数学	英語
伊予市	69	48	41
愛媛県	69	50	43
全国	69.8	51.0	45.6

### 【小学校】

- 小学校国語科の平均正答率は、全国・県平均を上回っている。小学校算数科の平均正答率は、全国・県平均を上回っている。

小学校国語科においては、学習指導要領の内容で見ると、知識及び技能「言葉の特徴や使い方に関する事項」、思考力、判断力、表現力等「話すこと・聞くこと」「読むこと」で全国・県平均を上回っている。評価の観点で見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2領域ともに、全国・県平均を上回っている。

小学校算数科においては、学習指導要領の内容で見ると、「数と計算」「データの活用」で全国・県平均を上回った。評価の観点で見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2領域ともに全国・県平均を上回った。

- 特に良好な内容

#### <国語科>

- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる
- ・ 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる

### <算数科>

- ・ 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる
- ・ 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる
- ・ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

### 【中学校】

- 中学校国語科の平均正答率は、県平均並みで、全国平均を若干下回っている。中学校数学科の平均正答率は、全国・県平均を下回っている。中学校英語科の平均正答率は、全国・県平均を下回っている。

中学校国語科においては、学習指導要領の内容で見ると、知識及び技能「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」、思考力、判断力、表現力等「話すこと・聞くこと」「読むこと」で全国・県平均を上回っている。評価の観点で見ると、「知識・技能」の領域で、全国・県平均を上回っている。

中学校数学科においては、学習指導要領の内容で見ると、「データの活用」で全国平均を上回った。評価の観点で見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2領域ともに全国・県平均を下回った。

中学校英語科においては、学習指導要領の内容で見ると、「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の3領域ともに全国・県平均を下回っている。評価の観点で見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2領域ともに、全国・県平均を下回っている。

- 比較的良好な内容

### <国語科>

- ・ 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる
- ・ 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる
- ・ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる

### <数学科>

- ・ 四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる
- ・ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

### <英語科>

- ・ 情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる
- ・ 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる
- ・ 文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる

#### 4 質問紙調査結果の概要

##### <小学校>

- 「将来の夢や目標」「地域行事への参加」などの項目において全国と比べて良好な結果である。なお、読書については、令和元年度課題となっていたが、昨年度に引き続き良好な結果を維持している。
- 国語科、算数科の「授業の内容がよく分かる」の肯定率が全国平均以下である。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしているか(学校の授業の予習や復習を含む)」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」などの肯定率が、全国と比べて低い傾向にある。
- 主体的な学び、協働的な学び、個別最適な学びについての児童生徒質問紙調査から、主体的な学び、個別最適な学びについて肯定率が低い。

##### <中学校>

- 「将来の夢や目標」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「友達関係に満足している」「平日に、1日30分以上読書をしている」「地域行事への参加」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」などの項目において、全国と比べて良好な結果である。
- 国語科、算数科、英語科の「授業の内容がよく分かる」の肯定率が全国平均以下である。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしているか(学校の授業の予習や復習を含む)」などの肯定率が、全国と比べて低い傾向にある。

##### <将来の夢や目標について>

将来の夢や目標をもっている児童生徒

	伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全国 (%)
小学校	83	84	82
中学校	70	69	66

##### <家庭学習について>

家庭で計画的に学習を進めている児童生徒

	伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全国 (%)
小学校	69	73	71
中学校	50	52	55

##### <読書>

読書が好きな児童生徒

	伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全国 (%)
小学校	72	71	72
中学校	75	70	66

##### <地域行事への参加>

	伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全国 (%)
小学校	61	63	58
中学校	53	48	38

##### <各教科の授業の内容が分かる>

		伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全国 (%)
小学校	国語	74	85	86
	算数	71	79	81
中学校	国語	74	81	80
	数学	65	69	73
	英語	58	60	64

児童生徒質問項目	小学校			中学校		
	伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全 国 (%)	伊予市 (%)	愛媛県 (%)	全 国 (%)
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか【主体的な学び】	71	76	79	76	75	79
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできているか【協働的な学び】	82	83	82	84	80	80
自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか【個別最適な学び】	77	84	83	74	75	75

クロス集計から（※クロス集計とは：二つ以上の質問項目を掛け合わせた集計）  
正答率に顕著な違いがみられた質問項目と各正答率

<朝食の摂取>

	肯定的回答	否定的回答
小学校	6 6	5 5
中学校	5 4	4 3

<定刻に就寝>

	肯定的回答	否定的回答
小学校	6 7	6 1
中学校	5 3	5 3

<計画的な学習>

	肯定的回答	否定的回答
小学校	6 6	6 6
中学校	5 5	5 1

<家庭学習時間(平日)>

	2時間以上	30分~2時間	30分以下
小学校	6 7	6 6	6 1
中学校	5 1	5 5	4 9

<読書は好きですか>

	肯定的回答	否定的回答
小学校	6 8	6 1
中学校	5 6	4 5

<各教科の授業の内容が分かる>

		肯定的回答	否定的回答
小学校	国語	7 0	6 3
	算数	6 8	5 1
中学校	国語	7 2	6 0
	数学	5 6	3 4
	英語	4 9	3 1

- 朝食の摂取、定刻に就寝については、規則正しい生活習慣が重要であり、肯定的回答をした児童生徒ほど平均正答率が高い結果となっている。ただし、中学校においては、定刻に就寝することともに、就寝時刻や睡眠時間、寝る前のスクリーンタイムなどの影響も考えられる。
- 計画的な学習では中学校において、家庭学習時間では小学校において、正答率の違いが見られる。学習方略が十分に発揮されるには一定量の学習時間が必要であるが、年齢が低

い小学生ほど学習時間の効果が強く表れている。しかし、学習時間が長ければよいわけではなく、「自分に合った学習方法を工夫する」「何がわかっていないか自分で確かめながら学習する」「問題を解いた後、ほかの解き方を考える」など、学習の仕方考えることが必要である。

- 読書が好きと肯定的に回答した児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られ、引き続き、読書習慣の定着に向けての工夫が必要である。
- 「授業の内容が分かる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、正答率が高くなっている。児童生徒が学びから取り残されていくことがないように、「子供の学びの姿」に着目し、教師が学習指導要領が求める資質・能力ベースでの、より質の高い授業改善を図っていくことが必要である。

## 5 今後の取組について

この調査結果は、児童生徒の学力の一部であり、全ての学力を調査しているものではありません。各学校から、学校の結果や今後の取組などが示されていることと思いますが、学校と家庭の連携の下、学習状況の改善を図っていくことが大切です。

伊予市では平成 25 年度から「伊予市立学校の教育力向上推進委員会」を設置し、伊予市児童生徒の学習状況に関する課題や今後の取組について協議しています。ここでは、基礎・基本の定着、小中学校（小学校同士、中学校同士、中学校区の小中学校）における連携、これまでの実践と ICT の最適な組合せを含めた学習指導の充実、家庭との連携の強化などが取組の課題としてあげられています。

今後、未来の社会を見据え、児童生徒の資質・能力を育成するに当たっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICT の新たな可能性を指導に生かすことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことができるよう、市と学校が協力して学力向上の推進に努めてまいります。

## 6 備考

愛媛県教育委員会のホームページにも県や市町の結果の概要が紹介されています。

(<https://ehime-c.esnet.ed.jp>)